

＜一富士二鷹三茄子＞江戸時代より初夢に見ると縁起のよいものとされてきたのが、まず富士山、そして鷹、3つ目がナスビです。確かに富士は二つとない“不二”、SHCでは夢どころか冬の晴天に映える大きな富士を目にする幸せがあります。鷹も精悍かつかしこそうでいいですね。



ナスビ(諸説あり)については「トマトではいけないのか」と思ったりもしますがナスビは奈良時代より日本人に食され、トマト(1700年頃伝来)の大先輩なのです。 <ロウバイ>→



＜新年の香りと彩り＞正月には盆栽仕立てで花の付いた梅の木を飾ったりしますが野辺ではまだ蕾が固いままで。一方、ロウバイ(蠟梅)は正にこの時期の花です。キャンパスの入り口から程ないところに植わっているものも冬枯れの中で目を惹く黄色の花を付けています。年の瀬に一枝のロウバイを飾ると彩りもさることながら部屋中に芳香が満ち、新年を迎えるには恰好の花ですね。



＜雪ならぬ霜化粧＞

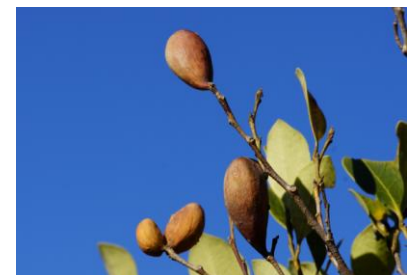


＜メタセコイアのやじろべえ＞

＜青空の下＞このところ晴天続きで朝方ぐんと冷え込み、水溜りや池には氷が張り野辺や畑は霜で真っ白です。草木や枯葉に降りた霜が朝日に輝く様は人の手では叶わないつかの間の”霜化粧”です。地面から目を上にやるとすっかり葉を落としたメタセコイアの梢に鈴なりの丸い実が目立ちます。この実は枝の同じ箇所から対になって付いて”やじろべえ”のようです。

もう一つ自然の創り出した玩具を見つけました。イスノキの虫こぶで3-4cmのイチジクのような形をして枝先に付いています。長い名前の付いたアブラムシが棲み暮らした後で5mmほどの丸い穴が開いています。”ひよんの実”と言い、穴に口を当て息を吹き込むと“ひょうひょう”と音がします。

「青空にひよんの実吹いて遠い日の風の中へ中へいくなり」(足立晶子)。でも笛にするにはよく洗った方がいいですね。いきなり吹いてみたところ間借りをしていたのかイラガの幼虫



が這い出してきました。



＜落ち葉の中で＞クヌギの根元 <イスノキの虫こぶ、ひよんの実>の落ち葉がしきりに跳ね上がっています。よく見ると太くて短い嘴をした小鳥が落ち葉の下の食べ物を啄(つい)ばんでいるようです。羽の色がはっきりしないのですが冬にやって来るシロハラ(左写真)でしょうか。 (文と写真：松本正勝)